

Pharmaceutical Sciences



“科学的な遊び
というの
は絶対に必要なんです。”

一般に、薬学部の目的は、「優秀な薬剤師・研究者を育てる。」ということになるかと思えます。けれども、学生には、まず自分が何をやりたいのかということを考えてほしいと思います。そういう意欲がある人に入学してほしいと思います。

研究室に入りますよね。それでテーマに基づいて研究をする学生に、私は「遊べ」というんです。「これをやったら、どうなるのかな?」とかね。先生が「これやりなさい、次はこれをやりなさい。」というのではなくて、「こうなったら、どうなるのかな、自分で考えてやってみなさい。遊んでみなさい。」という言い方をします。けれども学生は、「余計なことをしたら怒られるかもしれないから、余計なことはしない。」と考えている。それではいけない。科学的な遊び、というのは絶対に必要なんです。それを許してあげないといけないと思えますね。

薬学部

FACULTY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES

- 薬学科
- 創製薬科学科



医療に貢献する 薬の専門家を目指す。

「薬学科」は薬剤師を養成する学科ですが、6年制課程となり薬剤師にはこれまで以上に薬の専門家として、薬物治療における責任ある役割が期待されています。そのために「薬学科」には講義で得た知識を実践し、医療人としての倫理観とコミュニケーション能力を醸成する場として、5ヶ月間の病院・薬局実務実習が新たに課されました。

本学科では、医療人として国民の生命を守り、健康を確保するという重大な任務を負う人材を養成することを基本とし、専門的な知識・技能に加え、医療現場での実践力と人間性を併せもち、社会から信頼される高い資質を有する薬剤師を養成しています。さらに、卒業研究を通じて柔軟な科学的思考力を育て、本学科の特徴である「研究できる薬剤師」として、医療薬学の発展に寄与する人材の養成をめざしています。

薬を通じて、 世界を目指す。

4年制課程の創製薬科学科では、創製科学や生命科学の分野で我が国の未来を支えていく優れた研究者を育成するための専門基礎教育を行っています。創製薬科学科を卒業すると学士(薬科学)の学位が授与されますが、卒業後は大学院博士課程への進学を強く勧めています。進学により、博士前期課程(修士課程、2年間)や博士後期課程(3年間)で、本格的な研究・専門教育を習得させ、製薬企業や食品・化学関連企業の研究者・技術者、国公立研究機関の研究者、国公立大学の教員・研究者などを養成することを目的としていま

す。気管支喘息治療薬エフェドリンの発見者であり、日本の薬学の父として創製薬研究に邁進された長井長義先生以来の伝統を守っています。

教育と研究とは互いに分断された存在ではなく、相互に関連づけられて営まれるものです。最先端のレベルの高い研究活動を通じて、初めて良質な教育を提供することが可能になります。本学科及び大学院でのレベルの高い研究・良質な教育を経て実力を身につけた後、社会に出て大いに活躍してください。

SCHOOL OF PHARMACEUTICAL
TECHNOSCIENCES

平成18年度から薬学部では、6年制の「薬学科」と4年制の「創製薬科学科」の2学科がスタートしました。

「薬学科」は薬剤師を養成する学科ですが、6年制の薬剤師はこれまで以上に薬の専門家として、薬物治療における責任ある役割が期待されています。そのために「薬学科」には講義で得た知識を実践し、医療人としての倫理観とコミュニケーション能力を醸成する場として、5ヶ月間の病院・薬局実務実習が新たに課されました。さらに本学部では卒業研究を通じて柔軟な科学的思考力を育て、本学部の特徴である「研究できる薬剤師」の養成をめざしています。

「創製薬科学科」は、徳島大学薬学部の創設理念である“新薬の創製をめざす”90余年の伝統により醸成された“創製”をめざした教育及び研究を行います。日本薬学の開祖で本学部の生みの親でもある長井長義博士の“創製”により国民の命を守り、健康を確保するという理念を受け継ぐ人材の育成をめざしています。

薬学部という「薬剤師の資格を得るための学部」と連想される方が多いと思いますが、決してそうではありま

せん。私たち薬学部の教育理念は、「インタラクティブ YAKUGAKUJINの養成」です。インタラクティブ YAKUGAKUJINとは聞き慣れない言葉ですが、幅広い知識や技能を身につけ多様な薬学の分野間で連携・対応しうる能力を持った人材を意味する徳島大学薬学部独自の造語です。一例として、「有機化学や物理化学が得意な薬剤師」や「医療現場に詳しい創製研究者」などが挙げられます。つまり薬学が関係するあらゆる分野で、自らの活躍の場を積極的に開拓できる可能性を持った人材の育成をめざしています。したがって、本学部では既成観念にとらわれない柔軟な思考能力を持ち、向学心に燃え、未踏分野の開拓精神に溢れた人材を求めます。一括入試で入学し、薬学を学んだ後に自分の適性を考えて学科配属を決めるというシステムを採用しているのもこのような理由からで、このシステムは本学部の特色の一つです。

もっと詳しく本学部のことを知りたい方は、オリジナルパンフレット「Be Ambitious!」を是非、ご一読下さい。



アドミッションポリシー

将来、生命科学を基盤とする薬学に関する研究に貢献することができる人を求めています。

薬学科

医薬品の性質や使用に関する研究に情熱、意欲、興味を有し、薬剤師として生命科学を基盤とする薬学に貢献できる人を求めています。

創製薬科学科

医薬品の創製に関する研究に情熱、意欲、興味を有し、生命科学を基盤とする薬学に貢献できる人を求めています。

本学部（薬学科及び創製薬科学科）では柔軟な科学的思考力を有する医療や創製（＝くすりを創る）研究に貢献できる人材の養成を行っています。

両学科とも入学するまでに身につけておくのが望ましい科目・素養等は以下の通りです。

- 国語・英語—薬学部で学んだ知識や成果を理論的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。従って、国語・英語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力
- 理科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、理科は化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望
- 数学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法
- その他—将来医療人や創製研究者として活躍するためには、上記以外の科目もおおそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育んでもらいたい。

カリキュラム (抜粋)

共通科目

1年次～3年次前期

共通学科

薬学入門1～3	生物化学1～4	基礎医療薬学1～5	応用有機化学1、2	環境薬学	遺伝子工学
分析入門1～3	製剤学1、2	医薬品開発論1、3	医薬品の有機化学	薬学英語1、2	医薬品化学1
物理入門1～3	生命薬学1～3	天然医薬品学1～3	生体分子の有機化学	構造生物学	薬学基礎実習
衛生薬学1、2	細胞生物学1、2	基礎有機化学1～4	無機化学	情報薬科学	薬学体験実習

薬学科

3年次後期～6年次

医薬品情報1、2	病理学
社会薬学1、2	生理学
薬物治療学1～4	実務実習事前学習
細胞生物学3	医療薬学・病院実務実習
医薬品開発論2	医療薬学・薬局実務実習
日本薬局方	卒業研究

創製薬科学科

3年次後期～4年次

医薬品化学2	医薬品高分子化学
創製薬学1～3	情報薬科学
薬物治療学1～4	卒業研究
日本薬局方	
製薬プロセス学	

薬学部 入試状況

志願倍率・実質倍率	募集人員[人]	志願者[人]	受験者[人]	合格者[人]	志願倍率[倍]	実質倍率[倍]
前期日程	50	380	355	56	7.6	6.3
後期日程	20	341	203	31	17.1	6.5
推薦Ⅱ	10	50	45	10	5.0	4.5

●志願倍率＝志願者／募集人員 ●実質倍率＝受験者／合格者

前年度成績(合格者)

	満点[点](センター:個別)	最高点[点]	最低点[点]	平均点[点]
前期日程	900 (500:400)	756.40	660.50	686.30
後期日程	1,400(1,000:400)	1,256.60	1,139.00	1,174.35

※前年度の配点により換算された最高・最低・平均点。各配点の詳細は、入学者選抜要項及び学生募集要項に掲載。

薬学科

取得できる学位 教員免許・資格

学位	学士(薬学)
教員免許・資格	■ 資格・受験資格等 薬剤師国家試験(受験資格)

創製薬科学科

取得できる学位 教員免許・資格

学位	学士(薬科学)
教員免許・資格	■ 資格・受験資格等 ※薬剤師国家試験(受験資格) ※創製薬科学科においては、卒業後、薬学関係の大学院を修了し、かつ一定期間内で所定の科目と実習の単位を修得し、6年制学科卒業生と同等であると厚生労働大臣が個別に認めた場合、薬剤師国家試験受験資格が与えられます。





VOICE

学生の声



薬学科4年
栗谷和典さん

本学薬学部は3年次から学科配属という全国でも珍しいかたちをとっています。研究？薬剤師？まだ将来やりたいことが決まっていなくても、「薬」に興味があるという人にはうってつけでしょう。先輩や先生の話、実際の講義の内容など、入学後でしか得られない知識を持ったうえで自分の道を選ぶという利点を是非活かして欲しいですね。



薬学科5年
山下修司さん

薬学科では5年次に病院・薬局での実務実習を行います。調剤を行ったり、ベッドサイドや薬局カウンターで服薬指導を行ったりと、薬剤師業務に携わることで様々なことが学べます。4年次には実務実習事前学習も充実しています。研究室は3年次からの配属となり、十分に研究を行うこともできます。

いろんな活動を通して、人と関わることの大切さや学ぶことの楽しさを味わえるのが本学科の魅力だと思いますね。

VOICE

学生の声



創製薬科学科3年
山中直哉さん

本学薬学部では3年次に研究室配属があり、私も希望通りの研究室に配属され自分が興味を持った研究をでき、とても楽しいです。また、徳島には大塚製薬という有名な製薬企業もあり、実際に企業の方からお話を聞く機会もあるので製薬に興味がある人にも役立つと思います。

また、大学ではサークルに入ることによって上下や横との繋がり、他学部、他校との交流も簡単に行えるようになるので、気に入ったサークルに入ってみることをお勧めします。



創製薬科学科3年
木下航輝さん

大学生活中にするべき重要な事として、自分の将来について具体的に考えるということがあげられると思います。そのためにはただ勉強をするのではなく、さまざまな経験をして、多くの刺激を受け、それを活かす必要があります。

大学生には多く時間が与えられていますが、それでも限られたものです。その時間を無駄にしないためにも、自ら進んで多くの事にチャレンジをして、大学生活を有意義なものとしてもらいたいです。